

反映状況票

(単位:百万円)

省庁名	調査事業名	調査主体	取りまとめ財務局	元年度予算額	2年度予算案	増▲減額	反映額
文部科学省	(16) スーパーサイエンスハイスクール支援事業 (国立研究開発法人科学技術振興機構運営費交付金)	共同	(中国財務局)	2,219	2,219	-	▲3
事案の概要	国際的な科学技術関係人材を育成するため、先進的な理数教育を実施する高等学校等を「スーパーサイエンスハイスクール」として指定し、学習指導要領によらないカリキュラムの開発・実践や課題研究の推進、実験等を通じた体験的・問題解決的な学習を支援するものである。						

調査結果の概要及び今後の改善点・検討の方向性

1. 事業効果及び効果検証について

事業開始から長期間経過しているにもかかわらず、有効な評価方法が確立されていないことから、文部科学省が主体的に、明確な評価基準を示すとともに、各指定校に検証可能な到達目標を立てさせるよう制度を改善していくべき。

2. 研究開発成果の普及活動（横展開）について

非指定校や近隣小中学校への成果還元を本事業の採択要件や評価項目として盛り込むなど、各指定校が確実に普及活動に取り組むような制度設計とすべき。

早期の自立を促すため、

- ・ 交付額の抑制・補助形式の導入
- ・ 継続指定は2期までとするなど、採択基準の厳格化
- ・ 指定期間終了後の自走化等に向けた取組方針が明確である学校に限定

といった見直しを行うべき。

3. 研究機器等の購入及び使用状況について

より効率的な調達となるよう、

- ・ リースや企業・大学等からの借受等についても事前検討要件にするなど調達ルールを厳格化すること
 - ・ 受益者負担を求める補助形式を導入すること
- を検討すべき。

反映の内容等

1. 事業効果及び効果検証について

評価基準や到達目標の設定については、文部科学省において、令和元年末までに管理機関や指定校を対象として実施したアンケート結果等を踏まえ、指導法・評価・普及に関する実践事例やモデルとなる事例集を令和2年夏頃までに作成する。また、随時、内容の更新・充実を図る。

更に、上記事例集等を踏まえ、公募や中間評価の際の評価項目の設定、各指定校の評価における有効かつ客観的な評価基準の設定に資するよう、令和2年中に評価ガイドラインの提示を行う（ガイドラインは適宜改訂を行う）とともに、令和4年度までに新たな評価基準に基づく運用を開始する。

2. 研究開発成果の普及活動（横展開）について

制度設計については、文部科学省において、指定校が目指すべき姿や指定の在り方、指定期間、採択基準、交付額の抑制・補助形式の導入等について有識者会議を通じて具体的な検討を進めるとともに、実施にあたって関係機関への周知を図り（令和2年夏頃～令和3年夏頃）、令和4年度から新たな仕組みの適用を開始する。

なお、早期自立を促す観点から、令和2年度において5期目となる指定校に対する支援額を2割削減した。（反映額：▲3百万円）

3. 研究機器等の購入及び使用状況について

調達ルールについては、文部科学省及び科学技術振興機構において、令和元年度中に、リースや企業・大学等からの借受等も事前検討要件にするなど、購入物品に係る事務マニュアルの改訂を実施し、厳格化するとともに、令和2年度以降についても必要に応じて随時事務マニュアルの見直しを進める。